

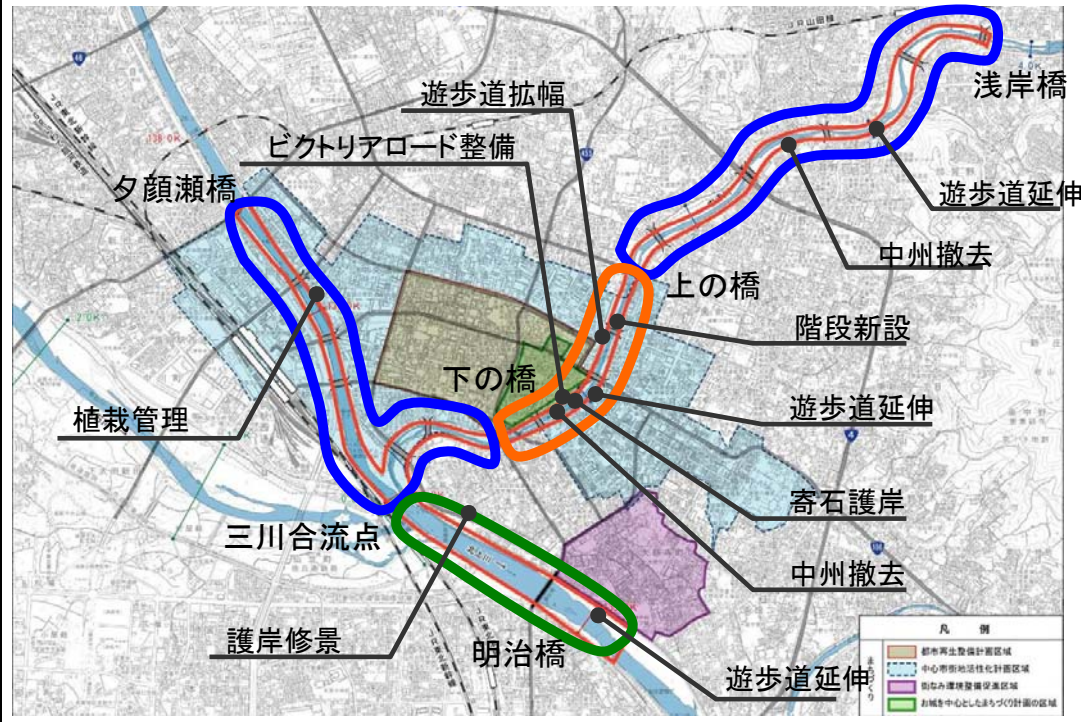
◆かわまちづくりの事業進捗と今後の進め方について

1) かわまちづくりの事業進捗

平成 22、23 年の 2 カ年で対象区間におけるワークショップ(3 地区)が全て完了しました。
各ワークショップで提案された施策は以下のとおりです。

【かわまちづくりワークショップの主な意見交換の範囲】

- 1 H22 中津川ワークショップ 2 H22 北上川ワークショップ
- 3 H23 ワークショップ



ワークショップの位置図と主な提案

●かわまちづくりの施策とワークショップでの提案事項

ワークショップを通じ、「かわまちミュージアム」の 17 の施策方針(案)を基本に議論が進められました。そのうちリーディングプランはまちづくりと連動し、自然豊かな賑わいのある水辺空間を提供する場として整備が進められています。一方、これまで維持管理してきた市民の高齢化、その体制の縮小傾向が顕在化しています。

今後は適切に市民が主体になって活動し、行政が支援する成熟した川づくりの仕組づくりを目指し、「整備」から「適切に維持管理できる川づくり」に移行することが求められます。

施策方針(案)	施策の方向・主な整備イメージ	ワークショップ		
		1	2	3
1. ひと・かわ・まちの連携の再構築				
1) かわでの市民活動の促進	・WS、オープンハウス等での議論の場、意見収集の場の提供	○	○	○
2) かわの魅力を伝える情報発信	・市民団体活動の場・情報発信基地としての場の提供	*	*	*
3) 多様な参画の仕組みづくり	・情報発信地・交流拠点としてのPR・活動支援 ・子育てに川を活かす仕組みづくり	*	*	*
4) イベントによる利用機会提供	・現状の各種イベントの推進・情報発信による活性化	*		
2. かわとまちの自然環境の保全・活用				
5) 自然環境保全の推進	・自然環境の情報共有と管理体制の構築	*	*	*
6) かわを学べる水辺空間づくり	・浅岸橋付近のサケ産卵場周辺の整備 ・学べる水辺空間の創出			*
7) 河道内植生の適正な管理	・河道内樹林の管理・中州の撤去	●	*	*
8) 河道内の植栽・管理体制づくり	・河原植生の管理 ・植栽方法等のルール・協定づくり	*	*	*
3. かわまちの歴史・景観の保全・活用				
9) まちの歴史を活かした水辺づくり	・先人たちの歴史を伝える場づくり	*	*	*
10) 橋詰・橋上の視点場づくり	・「橋」を活かした散策ルートづくり(たまり場・休憩施設等)	○	○	○
11) 街並みと調和した護岸の維持・補修	・コンクリート護岸の補修・修景整備(合流点～明治橋下流)		●	
12) 景観保全・形成の実施体制づくり	・川沿いの古い街並みの保全と景観形成方針 ・河川・水辺空間の景観づくり方針		*	
4. かわとまちを結ぶ連携空間の創出				
13) 水辺の遊歩道の整備	・フットパスの延伸整備	●	○	○
14) まちと川とを結ぶアクセス整備	・川へのアクセス整備	●	○	○
	・バリアフリー坂路の整備・改良	●	○	○
	・街並み環境整備との連携による動線確保(川へのアクセス)		○	
15) 河川利用拠点の整備 (例：盛岡城跡公園との一体的整備)	・歴史文化施設との一体的水辺空間整備	●	*	*
	・盛岡城跡公園との一体的休憩・オープンカフェ等の整備	*		
	・ビクトリアロードの修景整備	●		
16) サインシステムの設置	・統一サインの整備(河道内・まちなか観光ルート)			○
17) 川とまちの連携空間の形成	・沿川未利用地等を活用した水辺に顔を向けた水辺空間整備	*		*

リーディングプラン

各ワークショップで提案された施策のうち、

●：整備(実施)済 ○：計画・設計段階 * 実現に向け検討を要する

1 ひと・かわ・まちの連携の再構築

●これまでの状況

H22年度～H23年度にかけて、ワークショップ（計10回）、オープンハウス・アンケート調査（計3回）を開催して、市民意見の把握、広報活動等を行ないました。また、今後市民と行政の恒常的な対話の場として、第1回かわまち勉強会が開催されました。

1) かわまち勉強会(報告)

第1回勉強会を開催（H23.10.26）し、コアメンバー・アドホックメンバー13名が集まり、活動団体の活動状況の報告や、活動の実践に向けた課題等について意見交換を行ないました。

＜参加メンバー＞

- 活動団体のリーダー等のコアメンバー：5名（7名中）
- テーマに即したアドホックメンバー：4名（7名中）
- 盛岡市・国土交通省の行政メンバー：4名（4名中）

＜開催内容＞

(1) 活動状況の報告

- ① 北上川 新山河岸周辺の活動について（金野氏）
- ② 中津川中の橋周辺の活動について（寺井氏）
- ③ 中津川富士見橋周辺の活動について（越戸氏）

(2) 各種活動の実践に向けた課題等について（意見交換）

中津川、北上川の活動について意見交換を行い、各々について検討テーマを設定し、市民・活動団体が中心となって検討を進めていくこととした。

- 北上川：新山河岸・新山舟橋と沿川のまちづくり
- 中津川：維持管理の仕組みづくり

また、今後も、市民、活動団体、行政の情報交換の場として、かわまち勉強会を継続的に開催していくこととした。



活動状況の報告



意見交換の様子

2) オープンハウス(報告)

24時間テレビイベント・テレビ岩手・内丸大縁日の会場にて、パネル展示とかわまちづくりに関するアンケート調査を実施しました。

(1) 実施日時：平成23年8月21日 10:00～16:00

(2) 実施場所：中津川中の橋下流右岸

(3) 実施内容

- ① 盛岡地区かわまちづくりパネル展示
- ② 明治43年、平成19年洪水パネル展示
- ③ 盛岡地区かわまちづくりに係るアンケート調査



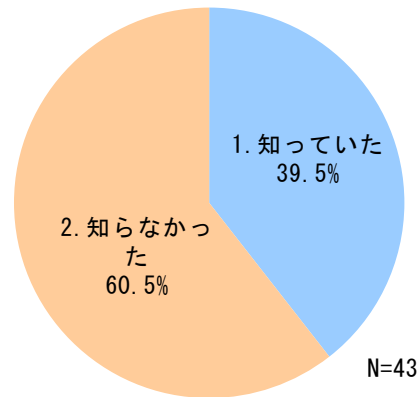
オープンハウス実施状況

3) アンケート調査(報告)

かわまちづくりに関するアンケート調査を実施し、計44通の回答を得た。

北上川・中津川で「かわまちづくり」の取組が行われていることを知っていましたか？

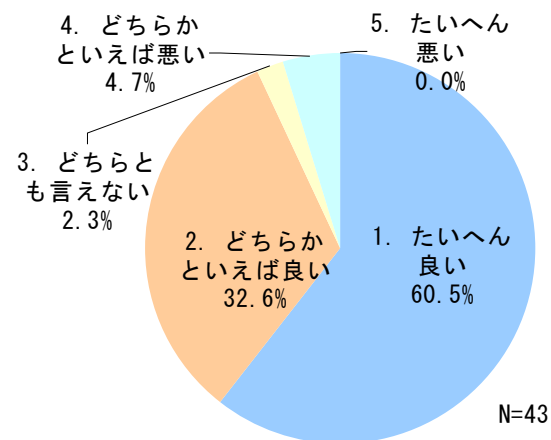
かわまちづくりの認知度は、4割にとどまった。



整備箇所について、整備されたことにより良くなりましたか？

A～Eのいずれの整備についても「1～」「2～」をあわせると8割は「良い」という回答を得た。

【A：ビクトリアロード整備】

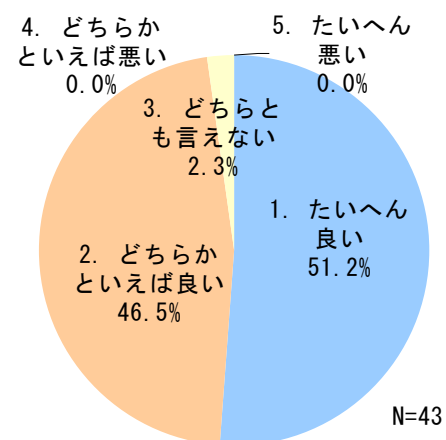


4,5とした理由

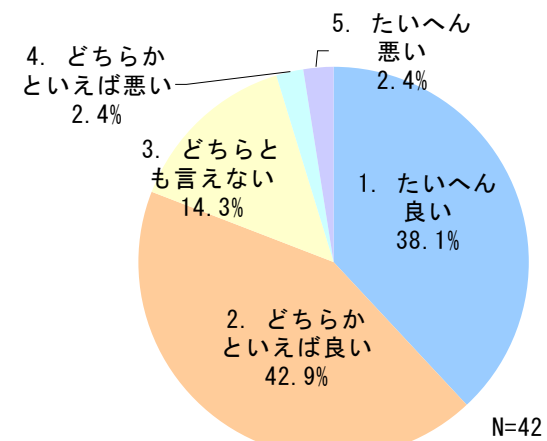
・緑が少ない。 ・あまりに作りすぎ。



【B. 散策路の整備 (延伸・拡幅)】



【C：中州の撤去、及び樹木間伐】



4,5とした理由

・緑が減少したため。 ・あまりに作りすぎ。

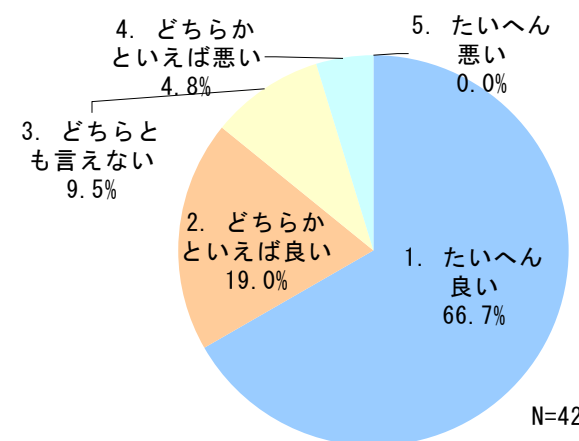
整備前



整備後



【D：水際に玉石設置】



4,5とした理由

・木柵の方がやさしい感じがする。 ・あまりに作りすぎ。

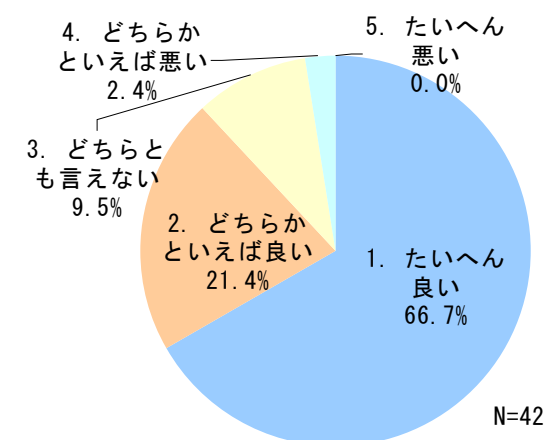
整備前



整備後



【E：自然石の階段】



整備前



整備後

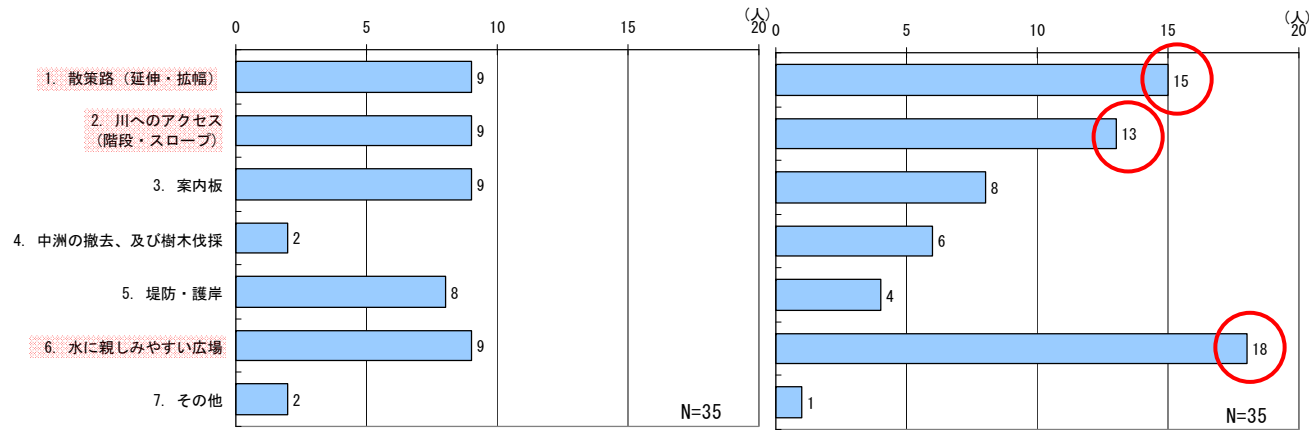


北上川・中津川に今後期待する整備がありましたら、お答えください。(複数回答)

今後期待する整備として、中津川では、「1. 散策路(延伸・拡幅)」「2. 川へのアクセス(階段・スロープ)」「6. 水に親しみやすい広場」などに多くの回答が寄せられた。

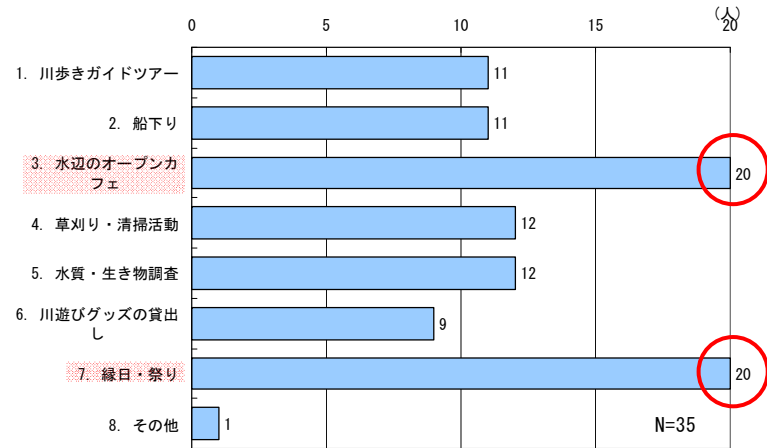
【北上川】

【中津川】



まちを元気にするために川づくり、まちづくりを進めています。どんな活動であれば参加してみたいと思いますか？(複数回答)

参加してみたい活動として、「3. 水辺のオープンカフェ」や「7. 縁日・祭り」という回答が多く、全回答者の2/3程度であった。



川づくり、まちづくりについてアイデアがあれば自由にお書きください。

- 中津川、北上川も水をきれいにし、観光にももっとこれるようにして欲しい。
- 商店街との連携や周辺施設と連携しイベントを行う。
- ジョギング、サイクリングロードの整備、冬でも雪がなく通れる様に。
- 中津川川辺特有の生物紹介(案内看板等)。
- 亀ヶ池に(京都の川床)みたいな物を作り、散歩後、休みながらビール、焼き鳥等、食べられるようなオープンカフェらしき物が欲しい。
- 北上川公園にバーベキュー施設がほしいです。北上川公園のグラウンドをたまに野球で使わせてもらっています。ありがとうございます。
- 明るい盛岡市。元気がんばれ。
- 水力発電。
- 釣り橋の設置(スリル体験)。三馬橋近くの中洲にあった「サニーランド蛇ノ島」跡地の活用。
- まちの中心にとっても良く川が取り入れられていて、とても良いです。
- 川沿い沿岸の町の外観が整備されると、散歩していても楽しいと思う。
- 立木、花に一工夫。

●今後の主な施策の展開方針

ワークショップの成果を踏まえ、市民と行政がかわづくりを恒常的に考える場、実践を通じて市民が主体となって議論、活動する場として「かわまち勉強会」の開催や、イベント時でのオープンハウス、アンケートの実施など市民の川づくり活動の運営を支援していきます。

2 かわとまちの自然環境の保全・活用

●これまでの整備の状況

過年度整備した護岸前面に捨石を配置し、落差解消、景観の向上を図った。護岸前面に配置した捨石は、長期的には土砂の堆積等によって植生の回復を期待している。今後、出水後の形状変化や、経年的な自然環境の変化についてモニタリングしていくものとする。

専門家等へのヒアリングを踏まえ、中洲の全面撤去ではなく、一部中洲を残して、治水安全性・自然環境の維持保全の向上を図った。だんご石の保全を含め、今後の出水後の形状変化や、経年的な自然環境の変化についてモニタリングしていくものとする。

○捨石による護岸整備（毘沙門橋上流右岸）

【整備前】



【整備後】



○中洲の撤去（毘沙門橋～中の橋）

【整備前】



【整備後】



●今後の主な施策の展開方針

- 河道内の中洲、樹林は、過去からの経年変化を踏まえた上で、現状で生息する動植物の生育環境、景観への影響に配慮し、治水安全度の維持、向上を目指した対策の推進を図ります。
- 盛岡市を代表するカキツバタ、勿忘草等の植生の保全・維持管理のあり方について勉強会で議論し、適切な管理体制の構築を図ります。

【中洲の撤去】

- ・中洲は、過去の出水によって変化している自然環境であることを認識しつつ、治水上支障のある箇所は優先的にその撤去を講じるものとする。
- ・整備後、出水による変化等についてモニタリングするなど、継続的に中洲の管理に努めるものとする。

【河道内樹林の撤去と保全】

- ・中洲に繁茂する樹林に対し、市民との情報共有を図りながら適切な管理を推進し、治水上支障のある箇所は優先的にその撤去を講じるものとする。
- ・一方、市民とともに管理可能な箇所においては、実践を通じて継続可能な維持管理の仕組づくりの構築を図るものとする。

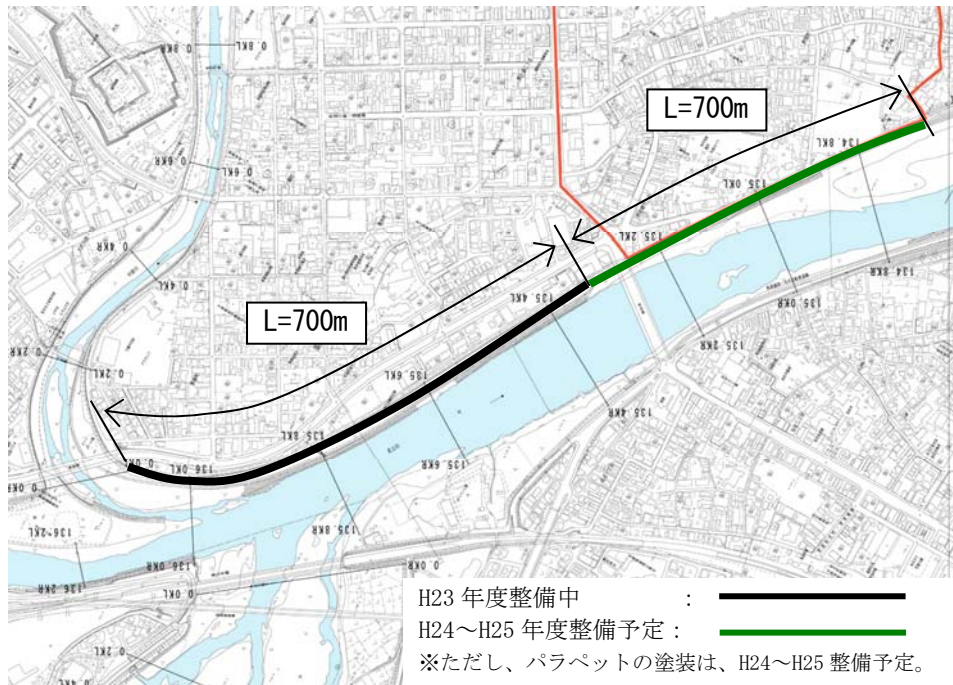
3 かわとまちの歴史・景観の保全・活用

●これまでの整備の状況

護岸の改修に伴い、盛岡の街並みに配慮し、自然石積護岸で整備及び修景し、河川景観の向上を図った。

パラペットは、市民からの提案書に基づき、高さ、幅を抑えた塗装案(石材調塗装)を採用し、堤防天端からの北上川を容易に望むことができるように配慮した。

○コンクリート護岸の補修・修景整備（北上川：合流点～明治橋下流）



○自然石積護岸 【整備前】



○段差解消 舗装



【整備中】



※ 12月14日、パラペット部塗装現地検討会を実施し、塗装・仕様を決定しました。



●今後の主な施策の展開方針

- 盛岡の古い町並みと調和した川づくりを基本とし、既設石積み護岸の維持・保全をします。
- 街並み環境整備との連携を強化し、護岸の修景整備の推進とともに、まちとかわを結ぶアクセス整備等を進めます。

【コンクリート護岸の補修・修景整備】

- ・ 三川合流点から明治橋下流の北上川は、背後の鉾屋町界隈のまちづくりとの連携を意識した護岸の補修、修景整備を推進するものとする。

【街なみ環境整備事業との連携（第5回懇談会より）】

- ・ かつての新山河岸の復元においては、街並み環境整備事業との連携を図りながら市民と盛岡市が中心となって検討し、実現に向けた支援を行うものとする。

4 かわとまちを結ぶ連携空間の創出

●これまでの整備の状況

水辺を散策する遊歩道を整備し、回遊性の向上を図り、水際部の自然環境への影響を最小限に留めるとともに、ユニバーサルデザインへの配慮に努めた。階段の設置は、設置する上下流の状況を考慮し、河積断面の確保を前提に、必要最小限の規模とした。整備後のアンケート調査では、「どちらかというが良い」、「大変良い」という回答が8～9割を占める結果となった。

○遊歩道の延伸整備（中津川）

【整備前】



【整備後】



○遊歩道の拡幅整備（中津川）

【整備前】



【整備後】



○ビクトリアロードの修景整備

【整備前】



○階段の新設整備（中津川）

【整備前】



【整備後】



【整備前】



【整備後】



●今後の主な施策の展開方針

○「歩いて楽しむまち：盛岡」の多様性を形成する空間として、また優れた水辺空間を回遊する歩行空間として、遊歩道の延伸整備、階段、スロープ等の整備を推進します。

○中津川と北上川の来訪者を対象に、かわとまちが連携した統一感のあるサインシステムの整備を進めていきます。

【北上川】

・明治橋上流から下流の御蔵までの左岸について、遊歩道整備を図るとともに、新規スロープ・階段の整備を推進するものとする。

【中津川】

・中津川は上流浅岸橋まで兩岸を散策できる遊歩道を整備することを目標とするが、高水敷に民地が存在している区間や、敷地的制約がある区間については、地権者との調整や治水安全性を確保しながら、優先区間を設定して実施するものとする。

◆今後の進め方について

今後のかわまちづくりは、「かわまちミュージアム」で定めた『柔軟性・発展性を持った計画』を実現する事業スタイルを継承し、市民を中心とした多様な担い手の参加による川づくりの実践を目指します。

平成24年度以降は、「かわまち勉強会」を市民と行政の議論の場として活動の中心に据え、その活動報告の場として「盛岡かわまち懇談会」は年1回の開催を基本に進めていきます。

	盛岡かわまち懇談会	整備推進とモニタリング	ワークショップ/オープンハウス/アンケート			かわまち勉強会
			中津川(上の橋～下の橋)	北上川(三川合流点～明治橋下流)	中津川(浅岸橋～上の橋、下の橋～三川合流点) 北上川(夕顔瀬橋～三川合流点)	
H21	第1～3回懇談会 盛岡地区かわまちづくり計画：立案 「盛岡かわまちミュージアム」					
H22	第4回懇談会 第5回懇談会	(提言)	中津川WS(3回：7月～9月) オープンハウス(2回) ○市民からの提案書作成	北上川WS(2回：12月～1月) ○市民からの提案書作成 (提言)	市民主体のかわづくりに移行する (市民は自ら活動する立場として、行政はその活動を支援する立場として)	
H23	第6回懇談会(6/20) ○護岸(パラペット)の修景等について 第7回懇談会(本日) ○市民からの提案書報告 ○提案書反映に向けた施策について ○今後の進め方	●中の橋下流 中州の撤去/捨石設置 ●中津川 遊歩道の延伸・拡幅 ●北上川 護岸の修景整備 等			中津川・北上川WS (5回：8月～12月) オープンハウス(1回) ○市民からの提案書作成 (提言)	設立準備会(8月) (メンバー選定) かわまち勉強会(10月) (報告)
H24～	1回/年開催 懇談会の継続 ○かわまちの整備や活動に関する報告 ○かわまち勉強会の報告等 (H24年以降)	●北上川 遊歩道の延伸・拡幅 護岸の修景整備 等		(報告)		かわまち勉強会 適宜開催 各種イベントを通じた オープンハウス(活動支援)

事業推進スタイル

社会や市民ニーズ・多様な関わりに柔軟に対応できる計画策定・事業推進スタイル

- 1 「計画・実行・点検・見直し」のプロセスを推進
- 2 情報発信・意見集約
- 3 多様な意見集約の場、活動の場を用意・支援し、意見の反映の過程の見える化

盛岡地区かわまちづくりの実現

多様な主体の参加による実践 〈担い手に発展〉

かわまちづくりの推進経緯と今後の展開

H21年度のかわまちづくり計画（盛岡かわまちミュージアム）策定以来、多様なコミュニケーション手法によって情報提供、または意見収集を行い、「協働・連携」の枠組みを構築してきました。

今後は、市民・市民団体など、多様な主体が自ら参加し、実践する事業へと発展させることを目指します。

議論・協働活動の過程をとおして発展する計画
〈柔軟性・発展性を持った計画〉

意見収集

サイクルの繰り返し

情報提供

意見収集

市民からの提案(書)

施策の内容によってはWSを設けて、意見・アイデアを募る
議論の結果を市民からの提案としてまとめる

市民意見収集

一般市民の意見を聞く機会を設ける

事業の実施

- 行政的判断
- 技術的判断
- 連携・支援体制構築

懇談会での議論 2

市民意見・市民からの提案を踏まえた議論

事業の立案

- 実施事業の企画・計画

懇談会での議論 1

行政が検討した企画に対する議論

情報提供

コミュニケーション手法（情報提供と意見収集）：事業の性格に適した手法を選択して、実施する

盛岡かわまちミュージアム 【盛岡地区かわまちづくり計画(案)】

今年度：目標像・基本方針・施策方針を検討して作成

H21年度策定

ワークショップ

地区別・まちづくり事業別に具体的な施設整備や市民の参画・役割分担のあり方などについて議論する場
議論の結果を「市民からの提案(書)」としてとりまとめ、懇談会に提言します。

オープンハウス

公共空間で計画内容を説明し、アンケートを実施し、一般市民の意見を聴取する場

イベント・社会実験

北上川・中津川で実施するイベント、または社会実験を通じてアンケートを実施し、意見を聴取する場

アンケート・パブリックコメント

盛岡市、国土交通省のホームページ、広報誌等により公表し、意見を集約

かわまちづくり懇談会

まちづくりと連携した良好な水辺空間を形成し、地域活性化を目指した「かわまちづくり」の各種取組みに対する意見交換の場

行政

盛岡市・国交省

協働・連携

市民・市民団体